

第442回鉄鋼流通問題懇談会

2017年10月26日(木) 13:00

茅場町「鉄鋼会館4階・日本鉄鋼連盟会議室」

議 題

1. 配布資料説明(全鉄連)
2. 全鉄連情勢報告
 - (1) 地区の状況
 - 東京、大阪、愛知、東北地区概況報告
 - (2) その他地区の概況
 - 鉄流懇10月例会で発表の各地区業況アンケート結果
 - (3) 総括：阪上全鉄連会長
3. 意見交換
4. 経済産業省挨拶
5. 鉄流懇会長挨拶
6. その他

○次回以降会議予定

2018年1月 日() 14:30～

於：茅場町「

」

鉄鋼流通問題懇談会 品種別動向について（2017年10月）

発表項目	発表者	鋼管	薄板	厚板	棒鋼・形鋼
1. 需給動向（景況感）	伊藤忠丸紅鉄鋼	国内鋼管需要はこれまでの物流倉庫・工場などの設備案件の継続に加え、秋以降に首都圏を中心とした東京五輪・パラリンピック関連施設案件の本格化による需要盛り上がりが見込まれる。鋼管市況はこれまでメーカーからの上昇に転じている。	2017年8月末の薄板三品の国内在庫は先月末比+16万トンの411.4万トンとなった。8月は鉄鋼メーカーと需要家の稼働日の相違という季節パターンが原因で、ほぼ例年並みの増加に留まっている。下期は鉄鋼メーカーの供給余力は少ない一方、好調な自動車生産や、オリンピック需要や首都圏を中心とした再開発案件などの内需が堅調推移する見込みであり、9月以降は在庫減少に向かうと思われる。	8月末の厚板在庫は395千トンで前月比6千トン減。受入れ、出荷ともに減少したが、受入れの減少幅が大きく、在庫減となった。しかし、在庫率は248.3%で前月比9ポイント高く、在庫量は足元の需給にタイト感はない。高炉の稼働に大きな変動はないが、下期になり荷動きに上昇の気配があり、今後出荷が増えることにより、在庫率が適正水準まで下がることが期待される。また、市況も上伸基調にある。	形鋼：建築需要期に突入していることもあり荷動きは良好傾向。土木も依然好調を維持している。原料高によるメーカーの値上げにより在庫店は販価を上げており市況は上昇傾向となった。 棒鋼：数ヶ月間、価格上昇が続いた鉄スクラップ価格が天井感を見せており、ユーザーは様子見となっている。引合いは閑散気味。しかしメーカーは依然採算厳しく、製品価格を現状維持したい考え
2. 需要産業動向		自動車分野は2017年1-8月の4軸累計生産台数実績にて636万台（前年同期比+6.7%）と堅調に推移している。 建設分野は2017年1-8月累計の出荷金額ベースで1兆6410億円（前年同期比+17.7%）となり、2015年30以降国内、輸出ともに堅調推移継続している。	8月の自動車国内販売（輸入車除く）は普通車が2ヶ月連続のマスタスとなり、小型車、軽自動車も対前年比プラスとなり、全体では33.1万台と10ヶ月連続のプラスとなった。普通トラック・バスに関しては、9月からのディーゼルの規制強化を前に販売が大幅に伸びている。 8月の民生用電気機器の国内出荷金額は前年同月比104.4%の1,863億円となり、2ヶ月ぶりのプラスとなった。8月は一部地域では天候不順がみられたものの、特に西日本では気温の高まりが多く、ルネアエコンの出荷金額が対前年比111.6%と高水準を維持した。	8月の全建築物の着工床面積は1,147万㎡と前年同月比+3.4%、公共の建築主は61万㎡（前年同月比+13.1%）で2か月連続増、民間の建築主は1,086万㎡（前年同月比+4.2%）で3か月ぶり減少となった。 住宅着工戸数は80,562戸で前年同月比+2.0%。季節調整済年率換算値では94.2万戸（前月比+3.2%）と減少となった。住宅着工の動向は前年同月比で2か月連続の減少となり、利用関係別では前年同月比で持家と貸家が減、分譲住宅は増となった。 鉄骨推定需要量は46万戸、前年同月比+7.5%。2ヶ月ぶりの減少に転じた。構造別ではS造45万9500戸、SRC造は9,800戸と推定。17年度4～8月（年度ベース）の鉄骨推定需要量は229万2,550戸で前年同期比+3.6%。構造別ではS造224万4,000戸で前年同期比+3.6%、SRC造は4万8,550戸で+4.2%での推移。	
3. 輸出入動向		2017年8月 普通鋼/鋼管輸出量： 縫目無鋼管 2.8万t（前月比+6%） 溶接鋼管 4.6万t（前月比+10%） 2017年8月 普通鋼/鋼管輸入量： 縫目無鋼管 0.1万t（前月比+18%） 溶接鋼管 1.2万t（前月比+3%）	8月の普通鋼鋼材輸入は38.3万トン（前年同月比+0.4%）と8ヶ月ぶりの減少となった。薄板三品では冷延広幅が8.0万トン（同+4.8%、8ヶ月連続）、亜鉛メッキ鋼板が9.1万トン（同+65.0%、4ヶ月連続）となっている。普通鋼鋼材輸出は212.5万トン（前年同月比+11.1%）と12ヶ月連続の減少となった。薄板三品では熱延広幅が113.2万トン（同+2.5%）と6ヶ月連続、冷延広幅が19.0万トン（同+17.5%）と2ヶ月連続、亜鉛メッキ鋼板が23.4万トン（同+13.5%）と3ヶ月連続で減少となっている。	8月の輸入通関実績は前月比13千トン減の47千トン。前年同月比では6千トン減となった。8月の輸出実績は145千トンで前月比15千トン増となった。韓国、中国向けともに増したが、前年同月比では12ヶ月連続の前年割れとなった。	
4. 海外市場動向		<油井管> 原油価格（WTI）は1バレル US\$50 前後の水準で比較的安定して推移してきている。それを受けて北米シェールオイルを中心に油井管需要は回復傾向にあるが、右肩上がりで回復を見せていた米国陸上掘削リグ数もここに至り頭打ちとなっている状況。米国テキサス州を直撃したハリケーンの影響も懸念され、今後もエネルギー開拓動向への影響を引き続き精査していかねばならない。中近東・アジア・CIS・アフリカ等においても油井管需要回復の兆しは見え始めているものの、本格的な回復というレベルには未だ達していない。WTIの動向、国際政治情勢と合わせて、国際市況を注視していく必要がある。	中国は1-6月の経済成長率は前年同期比6.9%増と予想を上回る水準となっている。8月の粗鋼生産量は前年同月比8.7%増の7,459万トンと3ヶ月連続で中国過去最高を更新している。5月以降、中国で鋼材市場は上昇基調であったが、9月の高炉火災事故の影響が短期で収束する、と伝わるや、市況に一服感が広がっている。10月から大型連休の慶節が始まり、当面の商いは乏しくなると予想されるが、冬季に入り大気汚染対策で製鉄所の減産規制を受け、需給は均衡していくものと予想される。	中国国内需要はインフラ整備を中心に堅調推移する中、地条鋼を中心に生産能力削減が進み、国内市況に影響が出ている。中国鋼消費量は年間7億トンを超えるが引き続き過剰生産問題を指摘している状況。	
5. トピックス					

メーカー
JFEスチール

発表者

発表項目

1. 需給動向（景況感）

（国内）・日本経済は緩やかな回復基調が続いている。家計部門は雇用環境の改善が続く中、8月の小売業販売額が10ヶ月連続前年同月比を上回る等、個人消費にも回復の動きが広がっている。
 ・9月の日銀短観は、堅調な内外需要を背景に大企業製造業の景況感が4四半期連続で改善し、07年9月以来10年振りの高水準となる等、好況感が窺われる結果となった。
 ・部門別では、製造業は自動車や機械生産の回復が継続、建設も東京五輪関連施設整備の本格化による需要増が期待される。
 （海外）・米国はハリケーンの影響も懸念されたが、景気は雇用情勢の安定を受けて概ね堅調に推移、欧州も景気は総じて回復基調にある。
 ・中国は足元で各種指標の伸び率が鈍化傾向が見られるものの、政策効果等で景気は安定的に推移している。

<国内鉄鋼需給>

（生産）・9月の粗鋼生産は862万トン（前年同月比+2%）と5ヶ月振りの増加。4-9月では5,204万トン（同▲1%）。
 （出荷）・8月普通鋼国内向け出荷は364万トン（前年同月比+6%）で10ヶ月連続の増加。一方、輸出向け出荷は212万トン（同▲9%）と10ヶ月連続で減少。
 （在庫）・8月末の普通鋼鋼材国内向け在庫は561万トン（前月比+19万トン）、3ヶ月振りに増加。
 ・8月末の薄板3品在庫は414万トン（同+18万トン）、お盆影響で前月比増も、増加幅は例年並み。
 ・9月末の厚板シャワー在庫は39万トン（同▲0万トン）。3ヶ月連続で前月比減。

2. 需要産業動向

〔建築〕・8月の新設住宅着工戸数は8.1万戸（前年同月比▲2%）で2ヶ月連続の減少。分譲はマンションの大幅増を背景にプラスも、持家・貸家減で全体では減少。非住宅着工床面積は472万㎡（同▲3%）で3ヶ月振りの減少。商業・サービス用の大幅減が全体を押し下げマイナス。
 〔自動車〕・9月の国内販売は45.5万台（前年同月比+4%）で11ヶ月連続の増加。4-9月では232万台（同+8%）。
 ・8月の完成車輸出は36.0万台（同+10%）で2ヶ月振りの増加。北米、欧州向けを中心に引き続き堅調。
 ・8月の四輪生産は69.6万台（同+6%）で10ヶ月連続の増加。
 〔造船〕・9月の受注は76万GT（前年同期比+302%）、4-9月では470万GT（同+216%）と昨年からは回復傾向。

3. 輸出入動向

〔輸出〕・8月の全鉄鋼輸出は318万トン（前年同月比▲9%）で7ヶ月連続の減少。韓国、中国、ASEAN向け等で減。
 〔輸入〕・8月の鋼材輸入（普通鋼・ステン鋼・その他合金鋼計）は46万トン（前年同月比▲7%）で6ヶ月振りに減少。
 国別では韓国（同▲2%）が8ヶ月振り、中国（同▲8%）が4ヶ月振り、台湾（同▲19%）が3ヶ月振りの減少。

4. 海外市場動向

・9月の世界粗鋼生産は、中国やインド、EU、韓国等の前年同月比増加により、1億4,143万トン（前年同月比+6%）となった。1-9月では12億6,692万トン（同+6%）
 ・9月の中国粗鋼生産は7,183万トン（前年同月比+5%）。
 生産は依然高水準で、1-9月では6億3,873万トン（同+6%）と過去最高ペースを継続。
 ・9月の中国鋼材輸出は514万トン（前年同月比▲42%）、14ヶ月連続で前年同月比減。内需好調で国内ソフト継続。
 1-9月では5,963万トン（同▲30%）、3年振りの1億トン割れペースで推移。